

宗教者災害支援連絡会第5回情報交換会

時：2011年9月11日（日）、14:00～18:00

所：東京大学仏教青年会

・報告1

西川勢二氏（真如苑東日本大震災復興支援センター責任者）

「真如苑救援ボランティア（SeRV）の支援活動等の経緯と現状」

・報告2

林心澄氏（真言宗豊山派清水寺住職・東電原発事故被災寺院復興対策の会事務局長）

「原発事故被災寺院の現状と復興への道」

・報告3

田中元雄氏（金光教大崎教会教会長・金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構
代表者）

「審査委支援活動で見えてきたことー金光教首都圏の場合」

・総合討議

1 報告1 西川勢二氏（真如苑東日本大震災復興支援センター責任者）

「真如苑救援ボランティア（SeRV）の支援活動等の経緯と現状」

・SeRVは1995年阪神淡路大震災の救援の為に設立された教団の救援ボランティア団体であり、ナホトカ号重油流出事故や三宅島噴火などの災害へ出動している。

・スリランカの事例

①現地に信徒や指導者を派遣

②様々な避難所がある中で一番公正に物資が行き渡るのは寺院

→僧侶がそれぞれの家庭事情を理解している

→僧侶自体が尊敬されていることも理由の1つ

・バンダアチェの事例

①イスラム団体と共同で支援

・東日本大震災では

①各地の社会福祉協議会と連携しボランティアセンターの設立支援

②東京災害ボランティアネットワークへの参加

③宗教団体と連携し情報交換を行う

・SeRVのエリアでも東京以西はバックアップ体制を取り、東北・宮城県・関東信越エリアはそれぞれの地域に支援をおこなった。

・大震災から半年が経ち、Phaseが変わっている

・被災地では高齢者が高齢者を支えている

・ユニバーサル財団→高齢福祉の推進を目的

→阪神淡路大震災の折に専門指導を受け、16年継続して傾聴ボランティアを行っている

(三宅島などでも)

- ・傾聴ボランティアでは、プライベートを聞くこともあるが布教はしない
- ・他には通常のボランティアと同様の活動をしている
- ・スタッフが被災地に向かう前や日常的に修行を受けているところが一般ボランティアと違う点

2 報告 2 林心澄氏 (真言宗豊山派清水寺住職・東電原発事故被災寺院復興対策の会事務局長)

「原発事故被災寺院の現状と復興への道」

- ・震災直後では、原発の話はベントの話のみであった
- ・御檀家は、明日明後日には帰れるものだと思っていた
- ・御檀家の安否を確認するために電話番号を役場に確認をしたが、個人情報保護法などから直接教えてくれなかった
- 林氏の携帯電話の番号を役場に預け、約 30%把握
- ・法務法要に関して
- 3月に亡くなった方は火葬のみ
- お盆前あたりから戒名などを貰いに来ようになる
- 拝む場所がなく(寺院や墓地)、納骨も出来ない
- ・仮設の寺を6月につくり、そこで法要などを行うようになった→30件程の法事
- 住職が居る安心感や御檀家が喜んでくれている
- ・東電原発事故被災寺院復興対策の会を発足→真言宗豊山派・室生寺派など17ヶ寺

質疑応答

- ・対策の会の要望はこれから全日仏へ提出→当日資料など(佛教タイムズ7/28etc.)
- ・神社は氏子の問題などから仮設が困難
- ・被災地以外との温度差(衣や機器などが無い)があり、その理解を願う
- ・共同寺院の設立は困難

3 報告 3 田中元雄氏 (金光教大崎教会教会長・金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構代表者)

「審査委支援活動で見えてきたことー金光教首都圏の場合」

- ・一週間後に現地入り
- インフラ等の断絶により、情報が入らなかった
- ・それまでに金光教教会の被災マップを作成→後の救援マップの原型
- ・見舞金などを市町村へ送る
- ・教会を中心としてボランティア活動を開始
- 仙台：御用聞きボランティア
- 石巻：少年少女連合(大教会)がテントを張って、教会の復興支援とベース策定し、ボ

ランティア受け入れへ

- 気仙沼：教会と紫神社が合同で避難所に→教会には 30～50 人が避難
- ・気仙沼合同避難所→紫神社では自治会主導
- ・曹洞宗 SVA や社会福祉協議会、ボランティアセンター、NGO、NPO と共同で気仙沼災害ボラセン立ち上げに参画
- ・気仙沼教会へ 1 週間単位でボランティアを派遣（第 21 陣 200 人程を派遣 9/11）
- 初期ボランティアは復旧ボランティアとして
- 7 月以降は生活支援ボランティアへ
- 孤独死、独居死の抑止→社協やボラセン、NPO などとタイアップ
- 町おこしへの支援
- ・金光教として、東日本大震災復興への祈りの作成
- 宗教としてどう祈るのか、どう受け止めるのか→祈りの言葉化
- 天地の恵みだけでなく、天地への畏敬の念
- 原発などの科学に対する気持ち

質疑応答

- ・祈りの言葉作成は、首都圏フォーラムという組織の約 20 名
- 作成において便利さや快適さについて、討議となった
- 利便性も人間の幸福を招くものであるが、その反面奢りなどを生んだ
- 利便性はいけないのか？という疑問も出た
- ・祈りの言葉は HP で公開している

総合討議

- ・全国青少年教化協議会（全青協）の主幹である神仁氏より全青協が主催し、宗援連も協力し、島菌代表が実行委員長を務める「震災と宗教を考えるシンポジウム 2011 もうひとつの生き方を探る」（10 月 10 日、増上寺三縁ホール 13:00 より）の紹介。被災者の心のケアに関して、第 3 回情報交換会でも話題となった仏教チャプレンの可能性についても触れる予定。
- ・「いわき地産地消復興支援 草とり土とりプロジェクト」の紹介（金子良事氏）
宗援連で実現を探っている「シニアボランティア」との協働の提案。
- ・「祈りの言葉のアンソロジー化」の提言（堀江宗正氏）。
早速榎本香織氏らが従事する予定。
- ・「東日本大震災被災地鎮魂ツアー（仮称）」企画書の紹介（龍谷大学・林遼平氏）。
- ・秋・冬になり支援が行き詰まる中、現地へ行くことへの重要性が指摘される（葛西賢太氏）。